

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590400028		
法人名	NPO法人 田万川地域サポート21		
事業所名	グループホーム めくもり		
所在地	山口県萩市江崎55番地		
自己評価作成日	平成25年11月4日	評価結果市町受理日	平成26年7月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(1) 自然が豊かなロケーションで平穏な暮らしができる環境にある。(2) 利用者様がそれまでの生活に近い形で生活できるよう様々な工夫をしている。例えば買い物、通院への同行、動物の好きな方には当グループホームで飼っている犬、猫の世話をしてもらう、花の好きな方にはお部屋の花を欠かさない、めくもり農園での軽度の作業、職員の乳幼児をあやしたりすることなどで楽しみや安定した時間を持つことができている。また、田植えや稲刈りの時期に自宅地域に出かけ、その光景を見て頂いている。(3) 運営推進会議を年間6回開催し、できるだけ詳しい事業や介護活動に関する情報を提供し、有益な意見・情報などを頂いている。(4) 職員の人材育成に重点を置き、外部研修費用、資格取得費用などは当事業所の負担としている。内外研修プログラムを紹介し、参加を推奨するとともに毎月の所内研修の開催、キャリアパス制度の活用などを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は介護計画に基づいた援助目標を日々確認され、利用者一人ひとりのケアの内容を活動実績簿に記録され、本人の話される言葉や仕種、表情などを介護記録に記録せられ、利用者の思いや意向、切らし方の希望を確認しておられ、本人の視点に立った、生活をささえるための支援に取り組まれています。職員一人ひとりに応じた計画的な人材育成を重視され、多くの職員が外部研修を受講でき、その内容を全職員が共有できるよう復命報告をされ、資料を閲覧できるように工夫しておられる他、職員各自の介護活動目標の取り組みや資格取得の支援をされ、職員全体の資質向上を図るように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「粘り強くおだやかにめぐもりに満ちてともに生きていきます。そして社会的責任を果たします」という事業所独自の理念と重点目標6項目を作り、地域に根ざした介護サービスの充実等をこれに盛り込んでいる。朝の申し送り時に、理念と重要事項の唱和を行っている。各職員がその日の目標と反省を申し送り時に発表している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。朝の申し送り時に唱和する他に、理念に基づいて「今日一日の目標」を共有し、夕方の申し送りで確認をして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会活動や環境清掃に参加している。年2回広報誌を地域や団体へ配布。地元の保育園・小・中学校の運動会では、玉入れや踊りに参加。地域の人が日常的に話に来てくださったり、季節の野菜などを頂いたりしている。重点事項の一つに基づき、地域との楽しい交流に努めている。	自治会に加入し、事業所だよりを地域や各種団体に配布している。地域の道の駅や商店街の春秋の手作り市場に出かけている。利用者は保育園や小、中学校の運動会に参加している他、中学校の文化祭の見学に出かけている。保育園児の来訪や中学生の職場体験、教師の社会体験の受け入れをしている。ボランティア(草取り、包丁研ぎ、ギター、尺八、大正琴、俳画、ぬり絵)の来訪の他、地域の人の立ち寄り、野菜の差し入れ、散歩時の挨拶など、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理事長・事務長が山口福祉文化大学で認知症福祉関連の特別講義。中学校生徒の職場体験学習や教師の社会体験研修受入れ。キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座に参加。認知症相談窓口を設置している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、全職員がケアの振り返りの場として捉えている。自己評価は各職員が作った原案を持寄り、管理者がまとめ、再度職員に提示した。評価機関からの助言は、全職員が参加する「反省検討会」に提出し、意見をまとめ、介護サービス向上につなげている。	管理者は評価の意義について説明した後、全職員が項目毎に記入し、管理者がまとめたものを回覧して、再度意見交換して仕上げていく。評価を活かして地域の人々や友人、知人の来訪の機会を増やすことや働きやすい職場環境の改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社会福祉協議会支所長、自治会長、市職員、包括支援センター職員、利用者、民生委員、家族、同業者等で構成し2ヶ月に1回開催、利用状況や行事報告、災害対策、外部評価結果、要望等について意見交換をし、介護サービス向上に生かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の現状報告、ヒヤリハット報告、職員研修、避難訓練、外部評価への取り組み状況等について報告し、意見交換している。水害対策についての夜間や停電時の対応や利用者の行方不明時の初期対応、防災メール、防災無線の活用、自治会への連絡方法について提案があるなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例については地域包括支援センターに相談し、適切な助言を頂いている。市担当者からは感染症や防災情報がタイミングよく提供されている。運営推進会議には市の担当者から委員として参加して頂き、情報交換につとめている。	市担当課とは運営推進会議の他、介護保険についての相談などで出向いたり、電話で情報交換している他、市防災担当課と、水害時の支援や避難訓練時に職員の参加があるなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時の他、困難事例などの相談や情報交換をするなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の「身体拘束防止」に関するマニュアルをもとに所内研修を行っており、理解が深まっている。また、職員が毎月提出する事業所独自の自己評価に「身体拘束があったか」などの項目を盛り込み、自身および他職員による身体拘束に意識を向けるなどして拘束しないケアに取り組んでいる。日中の玄関を含めた出入口の施錠はしていない。これまで身体拘束をしたことはない。	年1回、内部研修を実施して、職員は抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。毎月1回、全職員は事業所独自の身体拘束に関する自己評価を実施して、拘束をしないケアの振り返りを行っている。スピーチロックについては管理者や主任が指導している他、職員間で話し合っている。玄関には施錠せず、外出したい人とは一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内研修において虐待防止に関する研修を行っている。予め職員から毎月「自分や他職員による虐待と思われる言動を自覚あるいは見聞したか」等のアンケートを提出して検討するなど、職員間で虐待防止やグレーゾーンといわれる言動への意識向上に向けて取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内研修で、権利擁護の制度概要及び最新の情報を学習している。当事業所の利用者様が利用されている「日常生活自立支援事業」を通して、社会福祉協議会での取り組みや役割を具体的に学び、意見交換をした。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての契約の締結及び解約、また改定等の際には、利用者様や家族様等が納得いくまで説明している。また、日常家族様等からの疑問等については、随時丁寧にお答えしている。毎月の「家族便り」を利用して共通的な疑問などがあればお答えすることになっている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話、運営推進会議等で家族様の意見や苦情を聞き、運営に反映している。「声」の箱を設置するとともに苦情相談窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。意見・苦情があれば、回答を施設内や「めくもり便り」で公表することとしている。	苦情、相談の受付体制を明示し、処理手続きを定め契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。年1回、満足度アンケートを実施している他、面会時、運営推進会議出席時、電話などで家族の意見や要望を聞く機会を設けている。運営に関するまでの意見は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の疑問・意見等は、代表者や管理者に随時気軽に相談できるような雰囲気を作っている。月1回の職員会議には理事長、施設長が参加して職員の意見や提案を傾聴し、運営に反映する機会としている。定期的及び必要に応じた面談を行い、公私にわたる相談や意見・提案等を聴き取っている。	月1回の職員会議や委員会活動、年3回の個人面談で職員の意見や提案を聞く機会を設ける他、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、声をかけ、聞いている。全利用者と外食に出かける支援への取り組みや思いの把握の方法について話し合うなど、意見を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・施設長は日常的に介護の場において職員個々の努力や実績、勤務状態を把握している。代表者と施設長は定期と必要に応じての面談を通じ、職場環境や労働条件等の改善に努め、やりがいを持って働けるよう気配りをしている。キャリアパスプログラムを必要に応じて改訂している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は各自の介護活動改善目標を設定している。新人も含め、全ての職員を対象に能力や職歴に応じた研修を行っている。月1回内部研修を行い、外部研修は勤務上重要な活動として位置付け参加させている。研修内容は復命し共有している。介護福祉士等の資格取得に必要な経費を法人が負担し、職員の育成に取り組んでいる。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環としての参加の機会を提供している。受講後は復命報告をし、資料を閲覧している。内部研修は年間計画を作成して月1回(認知症、身体拘束、事故発生時の対応など)実施している。新人職員には、理念や認知症などマニュアルに基づいて研修をしている。山口県宅老所・グループホーム協会や同業者との交流研修会にも参加している。資格取得の支援もしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入して情報交換するとともに、現場の意見を国の政策に反映するようアンケート等を通じて提案をしている。萩市内外の同業者との交流研修会に参加している。		
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される利用者様の戸惑い、不慣れな環境からくる不安感、孤立感をなくすために、ご本人が納得、安心されるまでじっくりと耳を傾けるようにしている。入居前の見学、面談を原則としている。入院されている場合は入院先に赴いている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの入居にあたり、家族様の戸惑い、不安等をじっくり聞き、納得して頂いた上で利用を開始して頂くようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の現状を十分把握し、グループホームとしてどのようなサービスが提供しうるのかを検討し、当グループホームで行なえないサービスについては、他地域資源を柔軟に活用して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に家事、調理・配膳・下膳、掃除、洗濯物干しなど、生活をする上で必要なことは一緒にして頂くようにしている。畑仕事、裁縫、編み物等も利用者様から職員が学ぶことが多い。誕生日やお祝い事は職員・利用者様皆で祝っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	無理のない範囲でできるだけ、家族様には利用者様との面会をお願いし、また毎月の家族便りには、ご本人自筆の手紙やぬり絵等も同封し、家族様にご本人の近況や残存能力が直接的に伝わるようにし、利用者様と家族様の絆が持続できるよう願っている。心身状態に変化が見られたら、すみやかに家族様へ連絡している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様同士や知り合いの小規模多機能の通いサービス利用者様との日常的な交流、墓参りや出身地域近辺へのドライブ、地域行事への参加などで馴染みの人に出会え、関係がとぎれないよう工夫している。	友人、知人の来訪や自宅周辺へのドライブ、墓参り、馴染みの美容院の利用、馴染みの商店での買い物支援し、家族の協力を得て、法事への参加、一時帰宅、外出、外泊、外食、墓参りなど馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様には、自然な形で他の利用者様と行動を共にできるよう、テーブルの席を変えたり、一緒に家事等をできるよう工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、利用者様の次の移動先の病院や特別養護老人ホームに見舞いに行ったり、手紙を出したりするなどして、家族様の気持ちを共有しつつ良好な関係を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話や行動、表情、態度などから利用者様の意思の把握に努めている。職員は、その利用者様の「ちょっとした言動」から意思を感じとり、介護記録に記入しマーカーで線引きをすることで職員間でそれを共有し、思いの実現につなげている。利用者様の意向や満足度アンケートの結果について職員間で意見交換をしている。	事業所独自のアセスメントシートを使用している他、日常の関わりの中での本人の言葉や思いなどを介護記録に記録して、申し送り時に共有している他、センター方式のシートを活用し、思いや意向の把握に努めている。カンファレンス時にも話し合い、共有してケアプランにつなげている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人ひとりの介護記録ファイルに生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の記録を綴じ、常時職員が確認できあるいは追記できるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの利用者様の状態を確認するとともに、定期的に見直した「できること・できないこと・わかること・わからない表」をもとに、残存能力の把握・維持と、快適な生活を送るために必要な支援は何かを検討・把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医、職員、管理者、計画作成担当者の参加でケア会議を開催し、介護計画を作成している。かかりつけ医が不参加の場合、同医師の意見書や本人様・家族様のご意見・要望・思いなどを参考にし、利用者様本位の介護計画を作成している。	計画作成担当者、利用者を担当する職員を中心に月1回ケアカンファレンスを開催し、本人、家族の希望、主治医や看護職の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しを行っている他、状況や要望に変化があった場合には、モニタリングに基づいて現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそった日々のケア活動の結果を一人一人について細かく活動実績簿に記録し、さらに重点的な内容を介護記録に記入している。職員は出勤した際にこれらに目を通し、送りでも情報を共有している。さらに毎月の反省会・研修会等でも利用者様の情報を補足・共有し、それらを介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	花好きの利用者様にはいつも花のある環境を実現させるために、花を買う、野花を摘んでくる、職員が家の周りにある花をもってきたりしている。また、動物が好きな利用者様のために、猫や犬を生活環境の中で飼うことで、癒しや潤いのある生活を送れるようにするなど、個々のニーズに対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会、他福祉施設、公共図書館、コミュニティセンター、道の駅などが提供するサービスや幼稚園、小中学校の行事などを有効に活用できるよう情報収集・交換を行ったり、実際に利用している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様の希望を尊重して、入居後のかかりつけ医を決定。当事業所が代行で受診介助もできるが、できるだけ家族様同伴受診をお願いしている。かかりつけ医、家族様との情報共有に努めている。	事業所の協力医療機関や以前からのかかりつけ医、他科受診など、家族の協力を得ての受診の支援をしている。受診時にはバイタルや利用者の状況などの情報を医療機関に提供している他、受診結果や薬等の情報を家族と共有している。事業所の看護職は毎日、職員の相談を受けたり、急変時の連携を取るなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急的状態のときはもちろん、日々、気づきの点について看護職に相談し、適切な救急対応や受診、看護等を受けられるようにしている。なお、看護職とは常に連絡をとれる体制をとっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段より、かかりつけ医、協力医との良好な関係を築くべく努力している。 職員が同行して入院される場合は職員が医師、看護師にデータをもとに詳しく口頭で、家族同行入院の場合は情報提供書で情報を提供している。入院中は職員が面会に行くなど、医療機関との連携に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期に向けた方針を家族様に説明し、希望を聞くとともに同意書を頂いている。重度化した場合や早めの段階から利用者様や家族様の希望を確認した上で、かかりつけ医と話し合って方針を把握し、職員も方針を共有している。また、本人様の状態変化に応じて、その都度家族様や本人様の意向を確認している。	契約時に、事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人、家族、主治医、看護職等の関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を共有して支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット記録や事故報告書により、事業所の事故対策委員会や毎月の反省検討会で事故等の実態について話し合い、また一人ひとりの状態に応じてセンサーマットをセットするなど、事故防止に努めている。また、毎日の嚥下体操や服薬支援、室内での布草履を履くことによる筋力アップや定期的に誤嚥時対応やAEDを使い緊急時の訓練をおこなっている。事故防止に備え、所内の定期的・随時の点検を実施している。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、その日の職員と話し合い、申し送り時に伝える他、事故対策委員会や月1回の職員会議で確認し、共有して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署の協力を得てAED使用訓練や救急救命法を全職員が受講している他、誤嚥、骨折、熱中症、脱水症の訓練も実施している。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な所内研修において、消防署員や地域消防団・萩市防災担当職員・消防機材業者の参加要請をし、通報、消火、避難訓練などを行っている。また、あらかじめ防災への協力をお願いしている近隣住民の参加による防災・避難訓練を行なっている。	年1回消防署の協力を得て、地域住民も参加して避難訓練や通報訓練、消火訓練を利用者と一緒に実施している。防災マニュアルや避難訓練マニュアルの基づいて、事業所独自に3ヶ月に1回、利用者も参加して風水害時の訓練を実施し、避難方法が身につくよう取り組んでいる。地域との連絡網を作成し、協力を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルがある。内部研修があり、職員は日々のケアを通じ利用者様と接する中で問題点や疑問点などをその場で話しあうことができる。また、例えばトイレ誘導などに際に「トイレに行きましょう」などの具体的な内容の声かけは控え、自然な形でトイレへのお誘いをしている。記録類や申し送りの際の個人情報の取り扱いに注意している。	内部研修を実施する他、ミーティング等で話し合い、日常のケアの中で一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の取り扱いに注意し、守秘義務についても話し合っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の介護場面の中で、利用者様がその時の思いや考え・希望などを表現できる雰囲気づくりに心がけ、表現された内容を介護記録に記入後マーカーで下線を引き職員間で共有している。また、意向を表出しづらい利用者様の場合は選択肢を用意してアプローチするなど意向の確認に工夫をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかなスケジュールはあるが、その人らしい日常生活が送られるよう支援している。草取り、掃除、外気浴、読書、生花、居室でアルバムを見る、季節の料理のお手伝いをして頂くなど、一人ひとりが自由にその人らしい暮らしができるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の来訪を依頼している。ご希望により美容院にカットや白髪染めにもお連れしている。起床時にご本人と一緒にご希望の衣服を選んで頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	同じようなメニューにならないよう利用者様のご希望を聞きながら献立を決めている。野菜の皮むき、ごぼうのササガキ、餃子作りや月見団子、おはぎ、お餅作りなどの季節料理作りに参加して頂いている。また、肉の苦手な方には魚料理を準備するなど、好みに合わせている。	収穫した野菜や差し入れの野菜などを使い、利用者の好みを聞いて献立を立てて、三食とも事業所で調理している。利用者は、下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳、片付け、食器洗いなどを職員と一緒にして、同じ食卓で一緒に食事をしている。誕生日の食事、季節の行事食、おやつづくり(月見団子、ホットケーキ、おはぎなど)、寿司の出前、飲み物の好み、おやつ持参の外出、月1回の外食の他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるよう支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの食事や水分摂取量を記録している。利用者様の状態に応じ、刻み食、粗刻み食、トロミ食を準備したり、牛乳の嫌いな利用者様にはコーヒー牛乳にして飲みやすくするなどの工夫をし、一人ひとりの力量や嗜好に応じて食事や水分の必要量が確保できるよう支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず利用者様全員に声かけし、一人ひとりの習慣に合わせ、義歯、自分の歯、歯のない方それぞれの口腔ケア方法をとっている。その際、適切に歯ブラシ、義歯等の取り扱いができるように支援している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣に合わせた排泄介助を昼夜ともに行っている。ポータブルトイレの使用、紙パットの使用なども含めて、できるだけ排泄の自立に向けた声かけや介助を行っている。声かけに拒否される方には時間をおいて再度、さりげなく声かけをするなどの工夫をしている。	排泄パターンや習慣を把握して、一人ひとりに応じて声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けての支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、野菜、果物などの繊維質の多い食事、利用者様によってはヨーグルトなどを召し上がって頂いている。また、日中の活動はできるだけご本人のレベルや状態に合わせて、屋内外での散歩、草取りなどの運動やゲームなどを積極的にして頂くよう工夫している。水分は目安量を必ず摂って頂くよう支援し、また排便量の確認をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日15時から18時頃までとしているが、利用者様の希望に合わせ午前中の中入浴も楽しめるよう支援している。入浴したくない利用者様には時間を変える、職員がかわって声かけをするなどの工夫をしている。ゆずやみかん風呂も季節に合わせて楽しんで頂いている。入浴前のバイタルチェックで体調の確認をし、ご希望に合わせ使用される石鹸も変えている。	入浴は週に3回から4回、10時から15時の間にゆっくりと入浴を楽しめるよう支援し、希望すれば毎日入浴できる。入浴したくない人には、日時の変更や声かけの工夫、職員の交代など工夫している。柚子やみかん風呂の他、仲良し2人での入浴、職員2人での対応、歌を唄うなど、一人ひとりに応じて入浴を楽しむことができる支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は利用者様の希望の場所にあわせて自室であったり居間のソファであったり、もっとも快適に感じる休息ができるよう支援している。夜の睡眠は穏やかに入眠できるよう、明るさ、TVの音、空調の調節などを行い、ご本人が最も安眠できるよう配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果・副作用などの情報は介護記録に綴っており、職員はいつでも確認できる。誤薬、飲み忘れがないよう個人別・時間別に専用ケースに保管している。服薬前には名前、日付等を2名以上の職員で確認し服薬介助している。必要な情報は看護師や医師にフィードバックしている。万が一、服薬のヒヤリハットが発生した場合は徹底的に分析し、同じ間違いが生じないよう改善に心掛けていく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの生活歴や趣味、希望されること等を介護記録に綴じて随時職員が確認できる。洗濯ものを干す・取入れ・たたむ、調理手伝い、仏壇の世話、共用場所や自室の掃除などを支援することでご本人の生活が張り合いや喜びを感じられるよう工夫している。	畑仕事、縫い物、ぬり絵、体操(嚙下、ケアビックス、リハビリ)、数字合わせ、歌を唄う、本読み、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、草取り、下ごしらえ、食器洗い、タンス拭き、季節の行事(餅つき、クリスマス、お雛様、節分など)、ボランティア(ギター、尺八演奏、俳画、大正琴)、移動図書館の利用、散歩、買い物など活躍できる場面づくりや楽しみ事、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、利用者様ご本人のご希望にあわせて行き先を決め、変化のある生活が送れるよう支援している。例えば日常的な散歩、ドライブ(ふる里訪問、墓参り、景勝地、稲の生育状態や稲刈り見学、運動会、俳画展等)に出かける。遠隔地に出向くご希望がある場合は家族様にお願いしている。	散歩、買い物、季節毎の花見(桜、つつじなど)、ドライブ(ホルンフェルス、道の駅、手作り市場など)、喫茶店、地元のぬり絵展、毎月の外食ツアー、運動会、稲刈り見学に出かける他、家族の協力を得て、墓参りや法事への参加など、戸外に出かけられるよう支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳を作り、利用者様の金銭管理能力に応じて一緒に職員が管理し、家族様にも内容を報告している。地域のイベント参加のおりに気にいったものを買われたり、職員同行での買い物のご依頼に応じている。できるだけ自力で買い物を完結できるよう、さりげなく介助している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のご希望によりご家族に電話をかけて差上げたり、手紙を書いて送れるよう支援している。月1回、めくもりからご家族様あての「めくもり便り」にご本人自筆のお便りを同封されることをお勧めして、数人の方には書いてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	H25実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には適切な温度や照明、新鮮な空気、快適な音(静けさ)等に配慮して日除け障子やカーテンを設置している。祭日には国旗の掲揚をしている。また、レクリエーションでの作品を飾ったり、四季折々の生け花、お雛様、5月人形、鯉のぼり、七夕飾りなど季節感を持って頂けるよう配慮をしている。	洋館風の玄関ホールの先にあるリビングは自然光が差し込んで明るく、テーブル、椅子、テレビ、ソファを配置し、季節の飾り物や置物、花を飾り、畳のスペースやソファは利用者の居場所となっている。台所からは調理の音や匂いがして、生活感を感じることができる。温度、湿度、換気に配慮し、トイレの段差の解消や廊下に椅子を置いたり、手すりを設置するなど、安全面の配慮がしてあり、居心地良く安心して過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の居間では、畳コーナー、TV、ソファ、観葉植物、季節の花や装飾品等をおき、変化のある空間でくつろげる工夫をしている。気のあった利用者様同士、また一人でのんびり過せるよう、居間や廊下・ベランダに椅子、ソファを配置している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、こたつ、テーブル、椅子、テレビ、仏壇(花やお菓子のお供えがある)、生活用品、家族の思い出の写真など、馴染みのものや好みのものを持ち込み、心地よく過せるようにしている。	タンス、テーブル、テレビ、茶ダンス、萩焼の花瓶、炬燵、のれん、花、花鉢、椅子、仏壇、家族の写真、本、俳画の作品、生活用品など使い慣れた物や好みの物を持ち込んで、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所のバリアフリー化(玄関やトイレ、風呂の段差など)する一方、明確な色の違いを出して注意を引く箇所(玄関のあがり口)も設けている。2階への大きな階段(15段)や2段の小階段があり、その階段を上り下りできる利用者様にはあえて日常的に使用して頂き、階段の昇降が困難な利用者にはエレベーターを使って頂くようにしている。手摺の増設を行なっている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームぬくもり

作成日: 平成 26年 7 月 2日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	平成25年7月の豪雨災害被災の経験より、日常から安全への意識を向上させるとともに自然災害及び火災への対応力を強化する必要がある。	利用者の安全を最優先とした防災対策、避難訓練、防災マニュアルの再検討と対応の徹底を行う	①事業所と地域とのつながりを生かし、災害時助け合う事ができる関係を築けるように働きかける。 ②定期的に職員、利用者参加のもと様々なケースを想定した避難訓練を行い、対応力を身につけるとともに、外部関係者(消防等)との連携を強化する。 ③防災訓練、及び防災に関する最新情報をふまえ定期的にマニュアルの内容の検討を行う。	1年
2	67	利用者の日々の生活を豊かにしたい。	利用者一人ひとりの特技や経験を把握し、楽しみごとを日常生活に取り組み、やりがい、生きがいのある生活の援助を行う。 また、地域の馴染みのボランティアの方々をお呼びする機会を増やし、外部とのコミュニケーション機会を作る。	①利用者一人ひとりの特技や経験を把握し、楽しく活動できる環境、時間をもうける。 ②畑仕事、家事などなじみがあり、得意とする分野で無理のない範囲で役割を持って頂き、生きがい、やりがいを日々感じて頂く。 ③家族会の実施、ボランティア活動等を招へいする。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。